

# 分会情報

J R 東海労大阪仕業検査車両所分会  
No. 2 8      2 0 1 1 . 5 . 4  
発行責任者      柿本 克彦  
編集責任者      教 宣 部

## ずさんな教育ではヒューマンエラーは無くならない！！

会社は4月11日から数日間（対象者1回）『重要作業ポイント集教育』を行いました。そして教育終了後に理解度確認（20問テスト）を行ってきました。その教育とは、重要作業ポイント集の中から会社が決めた13項目の作業ポイントを社員に朗読させ、その後ペーパーテストを行うといった内容のものでした。

ところが、会社は4月26日付けで『重要作業ポイント集教育を終えて』と題した掲示を張り出したのです。その内容は、「**教育終了後に理解度確認を行った。しかしながら、この中においても理解不足な社員も散見された**」と記載され、さらには「**理解度不足の社員は再確認（テスト）を行う**」と書いてきたのです。

教育を受けた社員からは「再確認（追試テスト）なんか聞いてない！」「そもそも一回読んだだけでは理解できない！」「ましてや徹夜や夜勤あけで集中力も限界の中でのテストは無理がある！」等々といった声上がるのも無理のないところでは。

ところで、管理者の皆さん！今回の『重要作業ポイント集』と『これだけは忘れない』の同じ項目について社員から何点かの作業手順（確認）が違うことを指摘されましたが、これまで何等説明がなされていないのはどういうことなのでしょう？はっきりさせると明言したはずではなかったですか！

このような曖昧だらけの中での教育で理解度確認。さらには、管理者個々で対応が違う再確認（追試テスト）にどのような意味があるのでしょうか？

今回の会社が行った重要作業ポイント集教育は社員にとって十分な教育と言えるものではありませんでした。しかし会社管理者は教育の既成事実を打ち出すために理解度確認による線引きをし、見せしめ的に再確認行為にでてきているのは明らかです。

会社はヒューマンエラー0を掲げています。もっとも重要な教育というのであるならば十分な教育時間と現物での実践的な訓練が必要と考えます。見せしめ的な行為ではヒューマンエラーは無くならない！！